

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370200984		
法人名	社会福祉法人ま心苑会		
事業所名	グループホームま心		
所在地	熊本県八代市敷川内町2243-2		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して楽しく過ごされる様、スタッフ全員協力して取り組み、家族様と協力して健康面で掛かりつけ医とも協力して健やかな日々を送られる様支援している。天然温泉の入浴に利用者の肌も綺麗に気持ちよく過ごされています。季節ごとに行事を取り組み苑内が笑顔で利用者に寄り添い楽しく歌を唄い、利用者の笑い声が聴かれる暖かいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症の拡大に翻弄された二年の月日はホーム生活にも様々な変化をもたらしたが、その都度全職員で乗り切り、変わらぬ職員体制に入居者や家族からも感謝の声があがっている。朝は入居者を交えて“理念”の読み合わせで始まり、夕方には馴染みの地名が出てくる“帰りの歌”を全員で歌うことを一日の締めくくり、状況を見ながら普段通りに出かける散歩は定着し、出来る事に最大限取り組む姿勢は高く評価される。入居間もない方の「やっていけそうな気がする！」との一言や、来客との対応に応じる職員に声をかけ「後でゆっくり話しましょう！」の言葉に「楽しみにします！」の返答など普段のやり取りからホームでの安定した暮らしが窺える。現在職員の休憩や夕食時間の見直しを行い、テスト期間として全体のバランスを検討しているところである。新年度のスタートに向けてより良い方法が望まれ、入居者の生活はもとより職員にとって更に働き甲斐のある職場として今後の展望が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの理念に分かりやすいように変えて毎朝申し送りの後入所者の皆様と職員で読み上げています。	これまでの理念を一部見直し、より職員の中に浸透するよう入居者との関わりや家族、地域との関係性をわかりやすく表現している。毎朝、リビングで読み合わせを行い、入居者も一緒に声に出したり最後には拍手も飛び出すなど、ホーム理念としてしっかりと認知されている。職員は読み合わせの度に心をつ一つにするように意識しており、理念を更にかみ砕いた内容を“介護の活動目標”として掲げている。	理念がホームの中にしっかりと根付いていることが窺える。今後は家族や運営推進会議などで理念について啓発されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一部の利用者は外の散歩中は地域との交流が出来ておられる。	理念に地域との信頼関係の重要性を謳っており、コロナ禍により地域行事は中止されたが、普段からホーム周辺を散歩し、「よう～散歩しなはるですね～！」など温かい声掛けをうけている。地元の花き農家からの花見学の誘いに出かけたり、地域資源を活用したドライブなどコロナの状況を見ながら地域へ出るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナの感染拡大防止の為地域との交流はあまりできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の民生委員・入居者様のご家族・市・地域包括の方と利用者への取り組みを報告し、意見を貰いサービスの向上に生かしている。	昨年は資料送付などによる書面審議にて会議を開催していたが、9、11月には直接開催が実現している。行政の書式に従い、入居者の状況や行事報告、研修内容及びヒヤリハット、事故報告を行い、広報誌とともにホームの現状を発信している。	資料送付時には推進委員からの意見の収集に努めているが、地域代表者から「アクシデントがどこで起こったか、位置関係がわからない」などの声があがっており、コロナ終息後にはあらためてホーム内を見てもらう等の取組が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と連絡は密にして取り組んでいる。	管理者は役所に出向き各マニュアルや書類の提出について担当者の指導を仰いだり、運営推進会議へのアドバイスを得ながらホーム運営に反映させている。コロナ以前の運営推進会議には、入居者同席の趣向を凝らしたものであり、行政や推進委員の協力によるところが大きく良好な関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則としてしない方向で職員皆が取り組んでいる。	身体拘束はしないことを原則としており、法人全体で拘束及び虐待をしないケアの実践に努めている。入居者の思いに寄り添い傾聴の姿勢を大切にしており、帰宅願望がある方には家族の協力を得て居室でひと時を過ごしてもらう等職員の提案も反映されている。センサーの使用にあたっては、家族への説明と了承を得て経過報告を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設の特養と共に高齢者虐待委員会を設け取組むとともに、機会あるごとに高齢者虐待防止の勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、職員全員で勉強会を行っている。必要性のある方は今は居られないがこれからは活用し支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者や家族に説明を行い、疑問点は尋ねられるよう促して同意書も頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する事は運営推進会議の時に意見等伺い反映させている。利用者には職員が直接伺い反映させている。	家族の意見や要望は面会時や電話で直接尋ね、遠慮なく話してもらうように心掛けている。コロナの状況によっては面会を断らざるをえないことからホーム便りや電話で入居者の様子を伝え、安心してもらうようにしている。入居者の中には自身の言葉で思いを伝える方もおられ、職員は普段の会話から行きたい所、したい事などを引き出し支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事は、職員ミーティングやカンファレンス際、意見や提案を聞いている。随時職員に意見は聞いて反映させている。	ミーティングやカンファレンスを利用し職員意見を吸い上げているが、普段から何でも言える雰囲気作りにも努力している。一部の意見で押し切らず全員から話を聞き運営に反映するようにしている。希望休や有休取得には職員の意向を優先し、現在休憩や夕食時間の見直しを検討しており、新年度からのスタートに向け全体のバランスを考慮して最良の方法を模索している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末年始に勤務した職員に手当を提供したりして職員の給与の引き上げを行っている。労働時間を職員が無理なく働ける様令和4年度から考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの感染防止の為、リモートによる研修の参加をしている。新人も研修がたくさんできるようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの感染防止の為八代GH部会の研修も管理者のみで参加している。勉強会は資料を貰って勉強している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で本人が不安な要因を傾聴して、安心され、楽しい雰囲気になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っている事、不安な事、要望等良く聞き、信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応のサービスを導入する段階で本人と家族等が必要としている支援を見極めたサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアや廊下のモップ掛けの手伝いを自ら手伝われたり、食後の食器洗いやお盆拭きの手伝いもされたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのドライブに参加されたり、外出、外泊等で本人と家族のきずなを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの美容室に家族と散髪に行ってもらって、関係が途切れない様に支援している。	田園風景に囲まれたホームでは四季折々の花や野菜を目にしながら個別や少人数での散歩に出るのが日課となっている。日々の食事をホーム調理から配食サービスに切り替えているが、入居者が出来る限り食に関わるようツワの皮むきや干し柿作りなど馴染みの手作業を支援している。離職のない職場環境が入居者と職員の馴染みの関係性を作っており、嬉しそうに職員に声をかける入居者の姿を確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良くされる様かかわっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も本人の様子うかがい、病院などの状況を相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや、暮らし方の希望を尋ね、家族と話し合いを行っている。	入居者の思いは普段の会話からくみ取り「散歩に行きたい!」「家に帰ってみたい!」などの希望に感染症の状況を見ながら支援している。家族には面会の制限もある中で入居者の状況を伝えながら要望を聞き取り、プランにつないでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方、生活環境等把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態等は把握して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを踏まえてカンファレンスを行い、ケアマネ、職員で介護計画の作成の話し合いを行っている。	入居者・家族の意向に沿い個々の状態を見極めながら必要な支援をプランにいている。入居間もない方の環境の変化に寄り添い、入浴の自立や毎朝のストレッチ、散歩など出来ることを見守り他者との関係性を支えながら安心して過ごしてもらう内容を掲げている。定期的カンファレンスで全入居者の現状を共有して、ケアの統一や評価を行い、現状に即したものとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、工夫など個別にパソコン入力行い、職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々生まれるニーズや対応は家族様にも協力頂き、柔軟なサービスが出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナで地域資源の共働は今までより出来ていないが、なるべく本人が豊かな気持ちで楽しむ事が出来る様支援して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医の受診支援は家族にも協力頂き適切な医療を受けられるよう支援している。	現在は協力医による訪問診療や希望の医療機関へ家族による受診支援(コロナの状況により薬のみの対応)が行われている。歯科については、必要時に協力歯科医による治療を支援している。また、法人全体で行われた協力歯科医による研修会に参加し、認知症に関する口腔ケアについても学び、毎食後の歯磨き支援に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師に相談しながら適切な受診・看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関と協働し安心して治療できるよう、また早期に退院で切りよう病院関係者と情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	掛かりつけ医と本人家族と職員も参加し、面談行い、重度化や終末期に向けた方針の共有と支援は取り組んでいる。	入居時にホームに出来るところまで支援する事を伝えている。継続した医療機関での治療が必要となったり、特養施設への転院などを退去の目安としており、現在特養への申し込みをされている方もおられる。また、元気な時から将来の事、もしもの時のことを話し合っていくとする「人生会議(ACP)」に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて通報訓練は行っているが応急手当や初期対応の訓練を行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時利用者と避難訓練は行っているがまだ足りない。併設の特養と共に地域との協力体制を築きたい。	今年度は6月に土砂災害を想定した訓練と、10月に夜間想定避難訓練を実施している。火災避難訓練やホーム独自で水害に対する垂直移動で特養施設に避難するなど、災害対策は法人との連携や協力を得ながら実施している。防災頭巾は手作りしフロアーに備えている。食備蓄として非常食対応献立3日分、非常食消費期限については一覧表で職員室に掲示している。	今後は現在できる訓練と、コロナ終息を見据えた訓練について検討しておくことも重要と思われる。職員室に掲示された非常食の消費期限については、期限切れの物も見られ、定期的な確認と、最新の内容を開示しておくことが望ましいと思われる。法人栄養科との連携が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉使いになる様意識している。	一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉使いなど職員間で共有を図っている。呼称は基本的に苗字としているが、下の名が反応よく喜ばれるなど個別で検討している。身だしなみやおしゃれの支援として定期的な訪問カットや感染症への対応から職員による支援にも努め、家族へ写真などで仕上がり伝えていく。また、入浴や洗顔後には好みの保湿剤を家族の協力も得ながら継続できるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし方を一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、家族様と協力し出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになる様時には嗜好品も購入したりしている。野菜の下拵えや食器洗いやお盆拭きも手伝い頂いている。	今年度より業者による食事提供を中心に、ご飯、汁物、差し入れや菜園で収穫した野菜などを使って一品をホームで準備している。月2回はお楽しみメニューが届くため、松花堂の器に移すなど工夫し、可能な限りおやつは手作りを心掛けている。また、嚥下力に応じた食形態、苦手な物には代替えなど個別に対応している。入居者の食への関わりとして、ツワの皮むきや干し柿作り(へた取り、皮むき)をはじめ、おしぼり作業(干す・たたむ・巻く)や食器洗い、お盆拭きなどが行われている。	入居者の中には「何か手伝うことはないですか!」とエプロンを付けて洗いをされる方もおられるようである。今後も入居者のできる出番が用意されることを期待したい。また、入居者の代弁者として味や量、残菜、入居者の声を検食簿に活かし、業者と意見交換されることも必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食べられる量や栄養バランスも考えている。栄養状態が悪い方にはかかりつけ医師にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清掃は毎食後職員が付き足りない時はケアを行い、歯科医院の往診を受けて口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はなるべくオムツを使わない様支援している。現在布パンツの方2名居られる。2名の方が必要時紙オムツを夜だけ使用している。	殆どの方がリハビリパンツを使用し、夜間のみオムツやポータブルトイレを使用されるなど、個々に応じて支援している。排泄用品を家族が準備される場合は、不足前にサイズなどを含め速やかに連絡している。トイレ内は臭気などもなく気持ちよく使用できるよう、清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に飲食物を提供し、歩行運動を促したり、水分をなるべく多く摂取出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当ホームは天然温泉であり、入所者様も入浴を楽しみにしておられる。入浴されない方は、陰部洗浄、足浴で対応している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯などでも楽しんでもらっている。	浴室内の掃除をはじめ環境を整え、基本午後から週3回の入浴を支援し、風呂上がりには酸性水によるかけ湯、水分補給や保湿に努めている。同性介助への要望や自立の方には見守りや声掛けを行っている。入浴ができない日も気持ちよく過ごしてもらえるよう、前ケアマネジャーの提案による足浴、マッサージをした後の靴下交換が定着している。季節湯(菖蒲・ゆず)も継続して取り組み、新年の若湯(初湯)の際も、入居者に説明した後楽しんでもらっている。	ホームの特徴である天然温泉を活かし、ゆっくりとした入浴支援に努めている。今後も個々の楽しみとなる入浴を検討しながら支援されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度管理を行い、気持ちよく休まれる様取り組んでいる。リネン、パジャマも毎週日曜日に洗濯したり、天日乾燥して清潔にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員皆さんで確実に服用出来る様に取り組んでいる。変化があった利用者様には、かかりつけ医師に相談し症状回復に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いも役割分担し、モップ掛け、手すり掃除、お盆拭き、食器洗い、おしぼり作りと上手に出来ている。外気浴、カラオケ、ドライブ等で気分転換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援として散歩を積極的に実施している。買い物支援がコロナ禍で中々出来ないが移動スーパーでの買い物は出来ていた。今年度は年末にお一人の方が外泊され家族様も喜ばれた。	以前のように季節ごとのドライブや買い物外出は難しく、近隣の散歩を中心に支援している。散歩が日課となっている方もおられ、朝早くからの散歩は夜勤者が帰宅前に付き添う等しながら要望に応じている。また、不穩になられた場合、職員や家族により海へのドライブなど目先を変えると安心されるようである。年末に外泊が実現した方や、「家に帰りたい！」の要望から、正月に自宅での食事を予定されたが寒さを考慮し、居室で新年会(持ち込みの食事)を楽しまれた方もおられる。	職員は外出に代わる楽しみ事をホーム内で実践したり、家族へもアイデアを提供している。移動スーパーでの買い物は中止となっているが、今後定期的ではなくとも(盆・正月など)、楽しみ事の一つとして復活されると良いのではと期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来られる利用者様は好きな物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの携帯電話に自分でやり取りされている方もおられ、一部介助行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のTV前のソファで寛がれる方が多く、壁に季節に応じた装飾を行っている。折り紙等で季節の行事等掲示している。	感染症への対応として換気や消毒の徹底などに取り組んでいる。室温も季節や入居者の状態に応じており、廊下も冬場はエアコンを入れ活動しやすいようにしている。リビングのテーブル席は入居者の相性などを考慮して決定しており、個別で低めのテーブルや足乗せ台を準備し、食事などが摂りやすいよう工夫している。ホーム内の共用空間は職員のアイデアや、外部評価結果を活かしながら取り組んでいることが聞き取りからも確認された。	掲示物については今後も表現方法などについて検討する機会を持つ事が期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人が好まれる利用者もおられ一人でTV前で過ごされたり、気の合う利用者とお部屋で話されたり、玄関や職員室で寛がれる方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの部屋は家族に相談して、本人の馴染みの物を置かれ、安全で居心地よい空間にしている。	ゆとりのある広さの居室は、クロゼットが備わっており、季節外や普段使用しないものを収納し、日常着はスタンドハンガーに掛けられている。居室の片付け・インテリア、衣類・排泄用品の管理と不足などの連絡は担当職員が行うことを業務分担として掲示している。居室内は安全に過ごせるようスッキリと整頓を行い、夜間もトイレを数回利用する方には、特にエアコンを付けスムーズな誘導につなげている。	家族の面会を控えており、引き続き安心に繋がるような居室状況の発信が必要と思われる。取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、レクレーションや活動が出来る様になっており、いつでも寛げるベッドや、ソファが準備してある。		